

## 札幌市立西野中学校の取組

### 1 道徳科の指導について

#### ・授業づくりのポイント

ここ数年は、読み物教材を中心に取り扱い、登場人物の気持ちになって考えることで、自己の考えを引き出すような授業づくりに力を入れて取り組んでいる。また、3年間道徳の教科化に向けて、校内研修とリンクし研究授業を行ったこともあり、教員の道徳科の授業に対する意識が変化してきたと思われる。

#### ・多様な学習展開

授業の中で、生徒一人一人が自己の考えをもち、他者と交流することによって、今までにはなかった「視点」や「気づき」を得ることができたなら大変素晴らしい。そのためには、考える時間、交流する時間の確保はもちろん、一人の人間として授業者の考えや思いも発信すべきであると考えている。また、ローテーション道徳などの取組を積極的に行うことが大切である。

#### ・学習指導における配慮事項

「考え、議論する道徳」を目指すためには、生徒一人一人のスキルや学級、学年、学校レベルでの共通実践が必要不可欠であると考えている。これらの整備は、授業の効率を上げ、より多くの生徒にとって充実した道徳科の時間を過ごすことにつながる。最近では、コミュニケーションにおいて課題が見られる生徒が多いことから、学級経営や集団づくりのアプローチも関連して大切にしていきたい。

### 2 道徳科の評価について

#### ・評価の工夫と留意点

毎時間、ワークシートを用いて生徒の考えを記述している。前回の振り返りを授業の導入としてリンクさせたり、一人一人の考えを学級通信等で発信したりすることで、道徳科の時間の価値や日常生活とのつながりについて生徒が改めて考える機会を設定することが大切である。

#### ・校内で共通理解を図るための手だて

現在は各学年に「道徳・学活・総合係」が存在し、具体的な授業計画、指導略案、ワークシートを作成し、学年会を経て各学級で実践している。学年間の連絡調整は、係内で行い、全体計画の周知は職員会議で行っている。